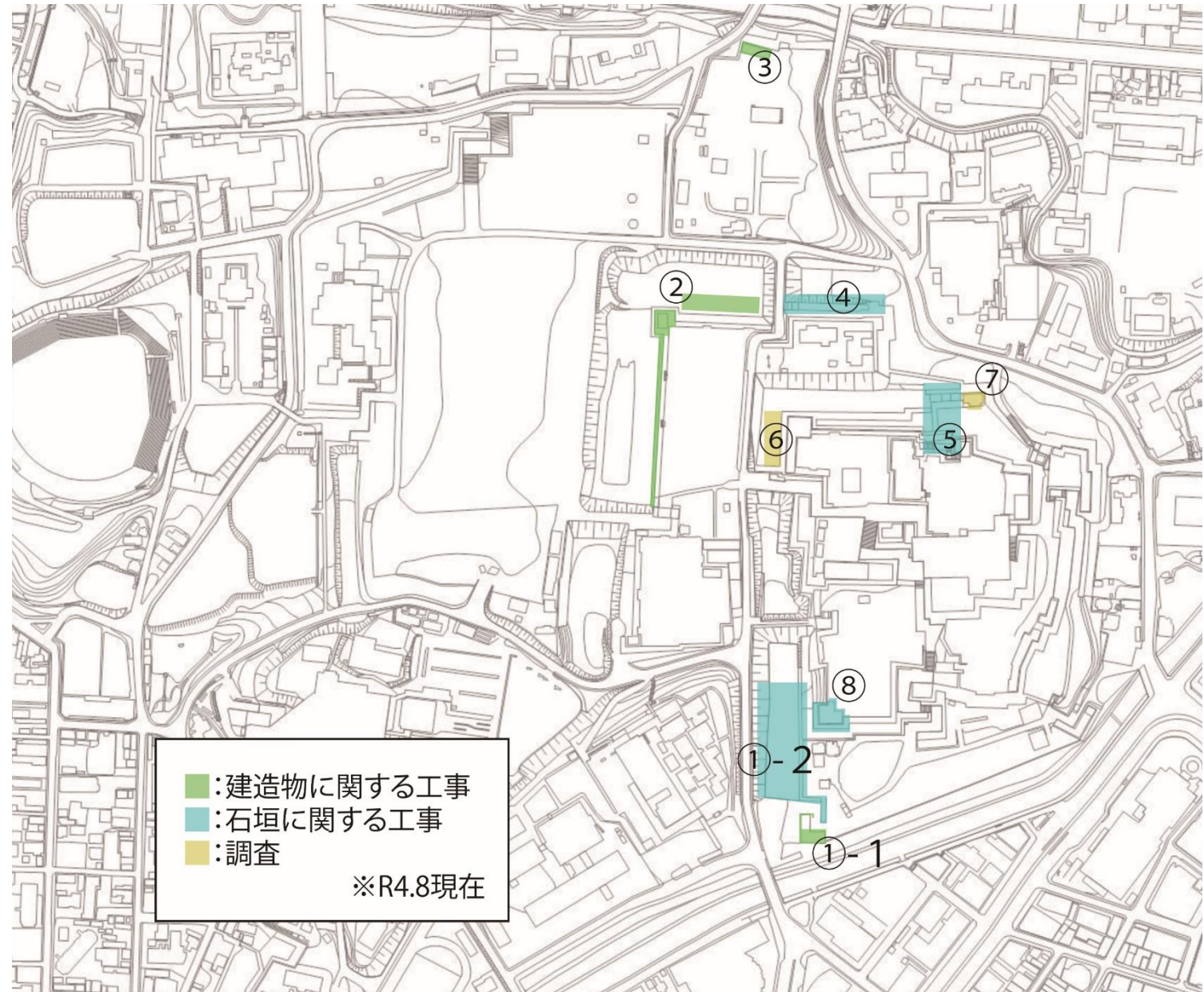


復旧状況紹介

復旧事業に伴う工事 (R4.3月～R4.8月)

- ①-1 馬具櫓解体保存工事
- ①-2 馬具櫓台崩落石材回収工事
- ② 戌亥櫓解体保存工事
- ③ 監物櫓復旧工事
- ④ 棒庵坂周辺崩落石材回収工事
- ⑤ 石門周辺崩落石材回収工事
- ⑥ 宇土櫓下空堀発掘調査
- ⑦ 平櫓排水路検討に伴う確認調査
- ⑧ 飯田丸五階櫓石垣復旧工事



①- 1 馬具櫓解体保存工事



被災前の馬具櫓



足場設置状況



被災後の馬具櫓



解体後の馬具櫓

昨年9月から工事が開始。
現在は櫓の解体が終わり、足場を撤去するところ。

解体工事の際は、鉄筋を櫓の下に差し込むようにして建物をジャッキで支え、工事中に万が一建物が落ちてきても事故が起きないようにしています。

左下写真に写っている建物を解体するところで崩落してしまう危険のある石垣は先行して解体を行い、崩落範囲が拡大することを防ぎました。

①- 1 馬具櫓解体保存工事

解体の工程は全ての櫓に共通します
(重要文化財建造物も)

①瓦を外します

②下見板（黄色やじるし部分）を外します



①瓦降ろし



②下見板降ろし

①- 1 馬具櫓解体保存工事

下見板の撤去が終わると壁の解体に入ります。外側のしっくい壁から順に撤去します。

しっくい壁・中塗り・ムラ直しの部分までは砂が混じっているため塗り直しが効かず再利用できませんが、その下の荒壁は土に藁を混ぜたものなので、水をいれることで再利用することができます。

壁の解体と並行して軸組や内板など内部の解体も進めていきます。

このような流れで解体工事は進みます。



③しっくい壁・土壁撤去



④軸組・内板等撤去

①- 2 馬具櫓台崩落石材回収工事



崩落石材回収工事の準備として、備前堀の水抜きを行いました。

これまで堀に溜まった土砂を取り除き、堀を整備した後に、堀の中に落ちている石材を一つ一つ回収する予定です。



②戌亥櫓解体保存工事

工事の流れは馬具櫓と同様です。

現在はしっくい壁の撤去と内板の撤去を並行して行っています。



③監物櫓復旧工事

昨年9月に石垣の復旧が終わり、現在は櫓の復旧工事を進めています。
工事は令和5年度にかけて実施する予定です。

現在は軒裏や破風の部分に漆喰を塗ったり、木工事を行ったりしています。

(8月下旬に瓦葺き開始予定)



④棒庵坂周辺崩落石材回収工事



石垣崩落状況



モルタル吹付状況

加藤神社北側の石材回収を行いました。単に石材を回収するだけでなく、測量と築石・栗石の回収を交互に行い、すべての築石の崩落位置を記録し、崩落パターンの検討も行います。



石垣回収状況

結果として、築石面中ごろから崩れる「く」の字状の崩落パターンが確認できました。

回収後は被害の拡大を防ぐため、法面はモルタル吹付による養生を行っています。

⑤石門周辺崩落石材回収工事



石材崩落状況



石材回収後

令和4年度7月から回収工事を実施しています。手順は棒庵坂と同様です。
平櫓西側の崩落石材の回収を行い、その後本丸北側の石材回収をする予定です。
工事は現在も続いており、来年2月に終了する予定です。

⑥宇土櫓下空堀発掘調査



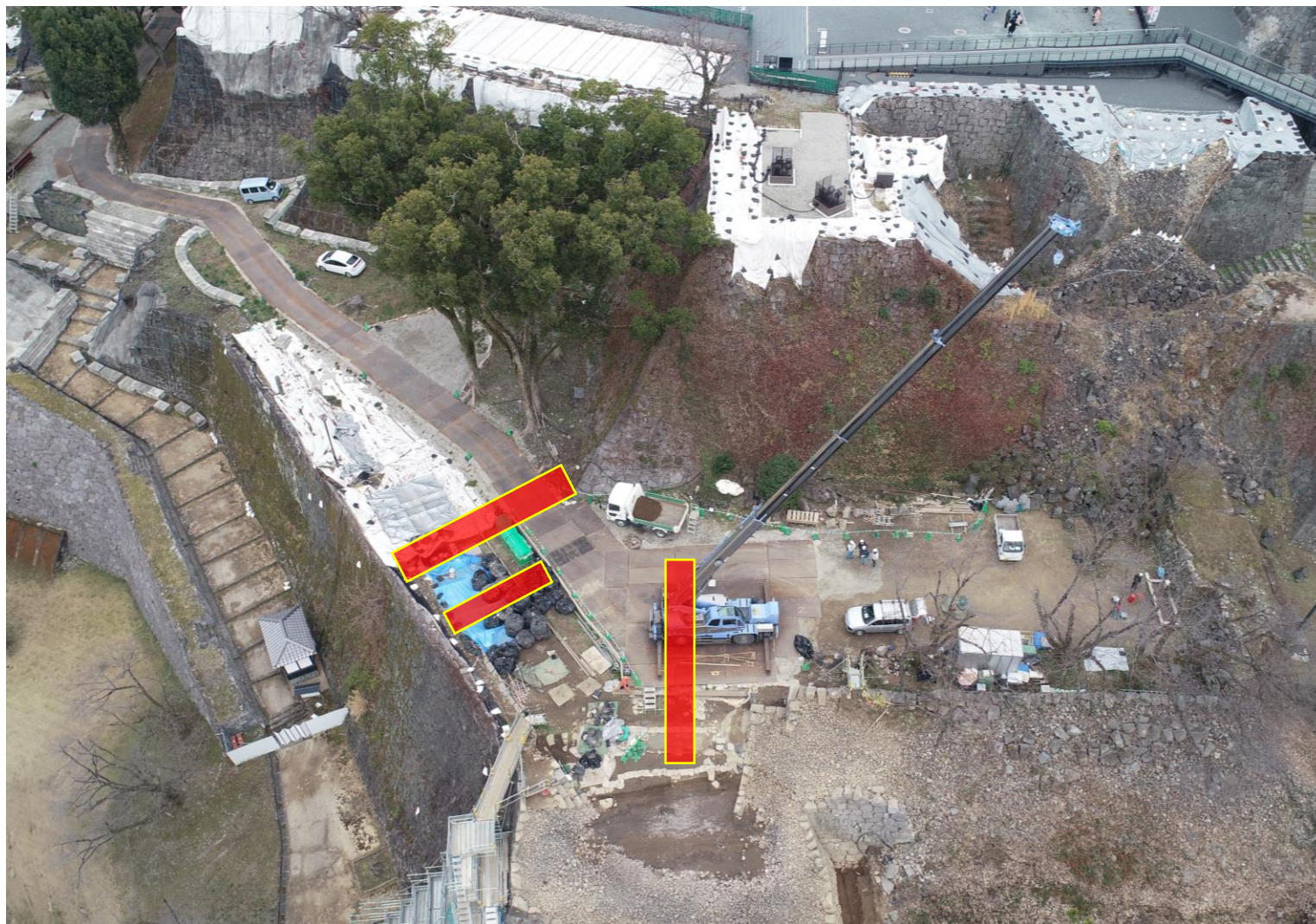
宇土櫓と調査地
(西出丸より撮影)

令和4年5月から6月にかけて、宇土櫓・続櫓石垣復旧に伴い、宇土櫓下空堀の本来の形状を把握するために発掘調査を実施しました。



調査風景

⑦平櫓排水路検討に伴う確認調査



調査地周辺（赤く塗っている範囲が調査区）

平櫓が建っている場所は、周囲に比べて低く、雨天時に周囲の雨水が平櫓に集中し、部材が腐食している問題を地震前より抱えていました。

復旧に伴い排水の問題を解決するための調査が実施されています。



調査風景

⑧飯田丸五階櫓石垣復旧工事



飯田丸五階櫓石垣復旧現場風景

7月から石垣積み直しのための準備作業中です。丁張（ちょうはり）と呼ばれる石垣を積む際に目安となるものを積み直しをする石垣前面に組み立てる作業を行っています。

第一高校東側の旧合同庁舎跡地の石材置き場では飯田丸五階櫓石垣復旧のために破損している石材の補修作業と飯田丸では石材の加工を行っています。



石材加工風景